

この長い間郷土先輩の絶えざる積み重ねが現在の波方町になったとすれば昔のこともよく知る必要があります。ところがこれ等の資料は乏しい、それでお国自まんのため、これを無理にせんさくしたり、憶測したりすることをやめて私は一応納得のできる古い資料や伝説、新しい事実や統計などの調査研究、さらに実地について、町の内外の踏査などに重きをおきました。そして現在のありのままを収録し、撮影して将来へ伝えることに最も努力しました。それは、今日は明日の歴史になるからであります。

こうして考えてみると、徳川時代から後、殊に明治百年が主体となるのです。といって昔を粗末にした訳ではありません。また何れの場合でも頂点的な上層のものになり勝ちで、それは国史の場合でも同じであるが、私は今まで書いたものでも低辺を歩み続けた大衆の生活に留意した参りました。

今回は特に現在の一万の町民が歩んでいる姿、我等の祖先が親和の中に今日まで積み重ねてくれた数々の労苦をなるべく見落さないようにと念願して筆をとりました、といっても合併しないと経営できない数多くの町村のある中に、発足以来の町村としては全国的にも珍しく、また裕福であり、且地域的にも広く、産業的にも、複雑な本町を古今に且って、あらゆる分野を殆ど私一人で書いたのですから、色々と手落ちや重複した所もあると存じますが、お許しを願います。

最後に町長はじめ関係各位のご協力に対して深甚の謝意を表する次第であります。

昭和四三年一月三日

著者 森 光 繁

なみかた誌目次

波方町の概観とその昔

波方町の概観	三
その昔	二四

徳川時代

集落の発生	五一
松山藩の政治	八二

明治以後百年

政治	一三一
----	-----

明治百年の大観	一三三
町村制実施にいたるまで	一四六
波方村の発足	一七四
財政	一八二
議会政治の変遷	一九三
社会諸施設	二〇一
町村合併と歴史的必然性	二二一
人口	二三一
町村制八〇年を顧みて	二三九
経済と産業	二四五
産業とその移り変わり	二四七
農業	二五四
終戦後の農業	二八〇
漁業	三二六
海運	三五七
工業	三八〇
綿織物	三八一

商業	三九九
----	-----

交通運輸通信	四〇七
--------	-----

明治時代よりの発達	四〇九
灯台	四二九
郵便電信電話	四三一

教育	四三七
----	-----

明治時代	四三九
大正から昭和へ	四五五
戦時下の教育	四六三
戦後の教育	四七八
学校及び校地校舎の移り変わり	五三一

生活	五四三
----	-----

概説	五四五
明治時代	五五三

参

考 資 料

編 集 後 記	年 表	参 考 資 料	小 部 湾 の 施 設	英 靈 の 冥 福 を 祈 る	生 活 の む す び	戦 後 の 生 活	終 戦	戦 時 生 活	家 庭 生 活
.....
七三一	七一	六七三	六六八	六四一	六三五	六一三	六〇三	五九四	五七九